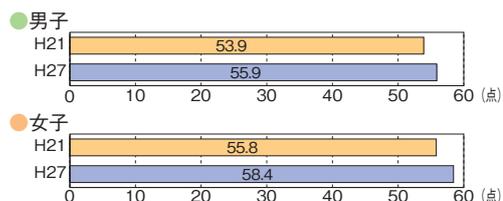
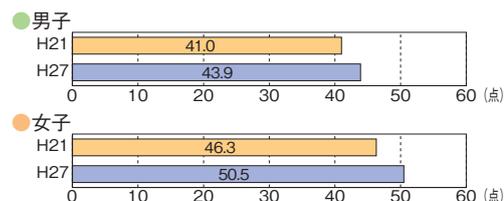


●体力合計点

●小学校



●中学校



絞って決定した。各学校では、2回目の新体力テストに向けて、記録が伸びるような手立てを考え実践し、指導技術の向上につなげた。

4 体育実技指導員の活用

各小学校に週2回、1日3時間、体育の実技指導員を配置し、体育の授業において個人に応じたきめ細かな指導を行った。特に「器械運動」では、試技を見せたり、運動中に補助に入ること、児童が安心して運動に取り組むことができた。

5 町内小学校なわとび大会の実施

持久性・スピード・敏捷性等の向上を図るため、「長なわ8の字跳び」を各小学校で行った。2月までに、時期を選び実施し、1年生から6年生全クラスの「長なわ8の字跳び」の記録を各小学校から集め、各学年1位から5位までを表彰した。各小学校で記録を競い合うことで、児童になわとびの楽しさを感じさせ、体力向上に対する意欲付けと習慣化を図った。

6 「協同的な学び」を取り入れた体育の授業の実践

各中学校では、大学から講師を招き、「協同的な学



▲和やかな雰囲気の中でグループ活動している様子(上里中学校)

び」を取り入れている。毎時間授業の中で3人から4人のグループ活動を入れ、学び合える環境をつくっている。グループ活動では、「運動のポイント伝える人」「準備・サポートする人」「運動する人」等の役割分担を行い、和やかな雰囲気、お互いに支え合いながら活動している。また、グループ内で運動のポイントを伝え合うことで、運動の理解が深められ、意欲の向上につながった。



▲運動の補助に入っている様子(賀美小学校)



▲長なわ8の字跳びに向けて個人練習の様子(上里東小学校)

Check ▶▶▶ 取組成果の評価

全国体力・運動能力、運動習慣等調査での児童生徒質問紙の結果から、「運動が好き」「運動がやや好き」と答えた割合が10ポイント増加した。また、新体力テストの結果をみると、総合評価A+B、A+B+Cの割合が、少しずつであるが、増加傾向にある。運動に対する意欲が高まるとともに、町全体の体力が向上した。

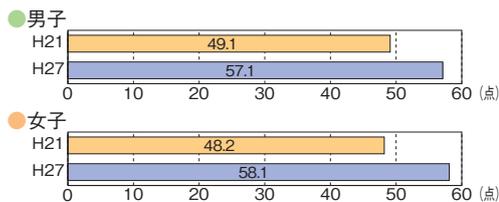
Action ▶▶▶ 今後の課題と取組

小学校から中学校へ進学すると、「運動が好き」と答える生徒の割合が低くなっている。また「20mシャトルラン・持久走」では県平均に届かない学年が多く、「持久力」に課題が残る。再度課題の分析と対策を町全体で考えていく必要がある。

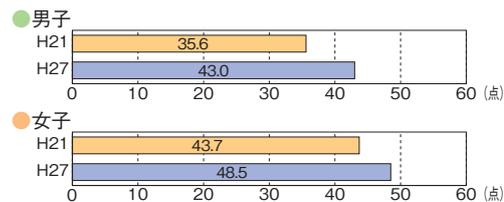
今後は、中学校から小学校への出前授業、新体力テストに向けての指導者講習会、部活動との連携、先進校視察など、小・中学校間の連携や、教員の指導力向上を視野に入れた研修を充実させ、更なる町全体の体力向上に努めていきたい。

●体力合計点

●小学校



●中学校



▲ベアストレッチ



▲体育の授業風景

●工夫したこと

- ①体育専科として最適な人材を配置。
- ②複数のクラスで授業を行う体育専科教員を有効活用して、指導の均一化を推進。

Check ▶▶▶ 取組成果の評価

学校をあげての取組を行ってきたことにより、体育の授業における児童の姿が変わってきた。自ら進んで動き、進んで考えて、主体的に体育の学習に取り組む児童が増えてきた。「運動が好き」「体育の授業は楽しい」という児童も、以前より増加している。その結果、今年度の新体力テストでは、多くの種目で昨年度よりも良い結

果が得られた。

Action ▶▶▶ 今後の課題と取組

児童の体力向上のためには、現在は高学年にしか配置できていない体育専科の教員を、全学年に配置できるようにすることが望ましい。また、実技研修会を継続して実施し、全教職員の指導技術の向上を更に進めていく必要がある。

27年度には小学校に新しい体育館とプールの建設も完成し、児童が雨天時においても活動が保証されるようになったので、更なる体力・運動能力の向上を目指して『育ちのリレー』の取組を充実させ、中学校へとつなげたい。

第2章
分析結果と
取組事例

テーマ
3
体力・運動能力の高い児童生徒・学校の特徴

